

なかむら  
中村遺跡

所在地 北設楽郡設楽町八橋字道下・西路  
(北緯35度7分41秒 東経137度35分16秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成21年11月～平成21年12月

調査面積 156㎡

担当者 鈴木正貴



調査の経過 調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年11月から平成21年12月にかけて実施された。調査は1m×2mのテストトレンチを76ヵ所と2m×2mのテストトレンチを1ヵ所の、合計77ヶ所を設定して行った。

立地と環境 中村遺跡は境川右岸の長い河岸段丘上から山麓にかけて立地する、縄文時代・平安～室町時代の遺物散布地として周知される遺跡で、標高は約440～470mに分布している。

調査の概要 調査は県道設楽根羽線よりも南側の部分で、建物や道路用地などを除く広大な区域を範囲とする。

北東端部の畑部分 (TT-1～TT-9) では、区画整理の影響を受けて遺構が良好に確認されない部分が多い。東部の水田部分 (TT-10～TT-39) では、ほぼ全ての試掘坑で河川性堆積物による安定した遺構面が確認され、多くの試掘坑で土坑などの遺構が検出された。TT-15・18のように礎石が確認される地点もある。遺物は平安時代から江戸時代までの遺物が若干量出土し、TT-32などでは加工痕が残る木材も出土した。中央部の水田部分 (TT-40～TT-45) では、褐色粘土や礫などの地山に達しないテストトレンチが多く、これが境川旧流路に相当しているかも知れない。

一方、中央部の畑部分 (TT-46～TT-63) では、多くのテストトレンチで土石流に起因すると思われる厚い堆積が確認されたが、TT-52やTT-54では遺構状の落ち込みなどが確認されたことから、中世まで遡る遺構が展開する可能性がある。西部地区 (TT-64～TT-77) では、多くの試掘坑で造成と思われる厚い堆積物があり、地山が確認されなかった。

まとめ 本遺跡は、東部水田地区で古代～中世の遺跡が良好に残存していること、および中央部畑地区の一部で中世の遺跡が一部残存している可能性があることが判明した。(鈴木正貴)



遺跡遠景



礎石出土状況 (TT-15)